



NPO法人
平和の文化東京ユネスコクラブ
会報 Vol. 10



ファッションショー・東京コレクションの「テンポ」のショー。障がいのある人たちが、「おしゃれに着られる『やさしい服』」をまとって出演した（東京・港区のメルセデス・ベンツコネクションで。2015. 10. 13）（関連記事・インタビュー欄）

©平和の文化東京ユネスコクラブ

目次

- ・インタビュー 鶴田 能史(のるた・たかふみ)さん (テンポデザイン事務所代表)
 「やさしい服って知ってますか？」 **2~4**
- ・講演録・イベント
 <「核兵器と原発のない未来へ」> / <銀座エコツアー> **5**
- ・これまでの講演・卓話・公演一覧 **6~7**
- ・被災地から ~あの日から5年~<南三陸 ネギプロジェクト> **8**



インタビュー



やさしい服って知ってますか？

～ 身体の不自由な人にも、
着ていて楽しいと思える服を～

ゲスト：鶴田 能史(たかふみ) さん
テンポ デザイン事務所代表

世界トップクラスのファッションショー、東京コレクションで、着脱しやすい磁石のボタン付き衣服、車いすの女性へのウェディングドレスなどを披露してきた。「障がいのある人や高齢者がうれしいと思える、機能性もファッション性もある服を提案していきたい」と鶴田さん。やがては「テンポ」を、障がい者が働く場にもしたいと将来を見据える。



象のテンポとドクロのヨミちゃん

——象を意味する「テンポ」がブランド名で、「ヨミちゃん」がキャラクター。そのヨミちゃんは愛らしく描かれてはいるが、ドクロがベース……。表看板からして実にユニークです。

鶴田 テンポって子どものころ見たアニメの主人公、ケニアのマサイ族の戦士の名前だったんです。テンポという響きが気に入って、メールアドレスにも使い、ブランドを立ち上げるときはこれ！と決めていました。テンポはスワヒリ語で象のこと、とは後で知りました。象は地上で一番大きな動物で、誰からも好かれるが凶暴な一面もあるといわれます。テンポも、優しさだけでなく、時には立ち向かう強さも必要ですから、ブランド名にもうってつけと
思っています。



——ヨミとは人の死後、魂が宿るといって黄泉(よみ)のことでしょうか？

鶴田 はい。「ヨミちゃん」も前から温めてあったんです。

——「黄泉」自体、難しい言葉ですね。「ヨミちゃん」と名づけ、可愛いドクロのキャラクターとは、正直、びっくりです。

鶴田 想像をかき立てられる言葉が好きなんです。極楽浄土(ごくらくじょうど)とか、三途(さんず)の川とか。三途の川からとった「サンズくん」もキャラクターにしていますよ。

——そういう発想ってファッションのデザインにつながりそうですね？

鶴田 つながります、つながります。ファッションは、人の世の森羅万象や体験を活かし、想像力を加味して創るものと思うんで。ヨミもテンポも昔からなじんでいたものです。



ヨミちゃん

原宿系の女性の影響で

——どんなきっかけでこの道に？

鶴田 興味を持ったのは高校2年の時です。コンビニのアルバイト仲間の女性の影響です。ファッションブルな人で、原宿系というか、いつもミニスカートで髪は坊主刈り。衣装も今だって、すごい！と思える奇抜さでした。

——否応なしにとりこに？

鶴田 そうですね。自分はずっとデザイナーを志していたんですが、彼女を知ってファッションへの関心が湧きました。原宿っていいよ、と言われ、3時間近くもかけて自分も行くようになったほどです。

——一大転機だったわけですね。

鶴田 ええ。当時自分は、美大を目指して塾にも通っていましたが、でも、ファッションに魅かれた。じゃあ、初めからファッションを目指して専門学校へいけばいい、それもどうせなら日本一の文化服装学院へと……。

——ファッションの芽は眠っていただけだったのでしょうか。

鶴田 それまでの自分はファッションとは真逆のダサい人だったんですよ。おしゃれなんかにも縁遠くて。それが一気に……。

——卒業後はいったん就職されたんですよね？

鶴田 はい、大変な『就活』でした。27社目に、やっとコシノヒロコさんの会社に採用してもらいました。でも、自分の力をわかっていたんですね。自分がブランドを創っても売れないだろうなって。だんだん、ただ服を作るだけではだめだ、誰もやらないことをやらなくちゃ……と思い始めていました。

祖母がくれたヒント……機能性もファッション性もある服

——障がいのある人たちのファッションですね？

鶴田 でも、初めからじゃないんです。ある時、祖母に自分が作った服を着てもらおうと持って行ったんです。祖母は痴呆症があったんですが、上衣は簡単に着られました。でも、スカートとなると独りで履けなかった。尿意を催しても脱ぐのが間に合わなかった。ちょっとでも身体が不自由な人には、下半身の衣類ってすごく大変なんだ、着るのも脱ぐのもと、ハッとさせられたんです。

——いい体験でしたね。

鶴田 ええ、そこにヒントがあったんです。あっ、これだ！って直感しました。いくらおしゃれでも、着にくい服、着せやすすくない服はだめだと思いました。おしゃれで機能性がある服はないのか探してみました。ファッションよりも機能性を重視する介護服があ

るくらいでした。よし、いずれ独立する時がきたら、おしゃれで機能性もある『やさしい服』を掲げるブランドを創ろう！と思ったんです。10年前のことです。

——雌伏10年ですね。

鶴田 知る限り、依然として、身体が不自由な人たちの服装にもファッションを、という兆しはありませんでした。この分野だけがガラパゴス状態でした。これをやろう、やらなくちゃいけない、と思いました。ビジネスとしてももちろん、人のためにもなると信じました。

障がいのある人たちと、日本一のファッションショーの舞台で

——不安はなかったのですか？

鶴田 何かメリットがあったのなら、誰かがやっていたでしょうね。誰もやっていない分野だからこそやってみたい、やりがいがあるとしか考えなかったですね。



東京コレクションのテンポ・ショー（2015.10.13）

——清水（きよみず）の舞台から、飛び降りるような心境ではなかったのでしょうか？

鶴田 いえいえ、いたってシンプルでした（笑）。なぜ、この分野を誰も注目しようとしないうらだろう？だったら自分が目立ってみせよう、目立てば注

目される。目立って世間に知られるようになれば人も情報も集まってくる、ビジネスもついてくる……そう考えたわけです。

——いきなり、東京コレクションに……。

鶴田 ええ。どうせやるなら、障がいのある人たちに日本一の舞台に登場してもらおう。それが一番手っ取り早いし、東京コレクションで障がい者のファッションショー！となったら、絶対、注目されると思ったんです。

世界トップ5のファッションショーに

——いかがでした？

鶴田 テンポを立ち上げてから半年も経ってない今年3月（注：昨年）に1回目、さらに10月と、2回やりました。反響は多彩で、「私にはこれこれの障がいがあるんですが、似合う服はありますか？」といううれしい問い合わせから、障がい者を食べ物にしている、といった賛否両論までさまざまです。

——東京コレクションは、世界でもトップクラスのファッションショーとか。

鶴田 何々コレクションというショーは、世界で1万件くらいあるんです。ニューヨーク、パリ、ロンドン、ミラノ、東京と続くトップ5が、東京コレクションというわけです。



——普通は、実績を積み重ねてから挑戦する舞台なんでしょうね。

鶴田 ええ。でも、自分がやろうとしているブランドの障がい者は、膨大な差別の歴史がある。悠長に、そのうちなんて言うておられないの心境でした。

障がいの有無を問わず、誰もが おしゃれに着られるピープルデザイン

——ファッションショーのジャンルとして、障がい者というのは初めてですか？

鶴田 東京コレクションとしては初めてでした。健常者しか出演していなかった舞台で障がい者も、というのは前代未聞だったんです。

——「テンポ」では、「障がい者」と「害」をひらがなで表記していますね。目を引きました。また、一般化しているユニバーサル・デザインという表現ではなく、ピープルデザインと……。

鶴田 「障害者」の「害」は、害虫の害につながり差別の遠因になると知ったんです。深い是非のほどは別にして、少なくともひらがななら「害」のニュアンスはないだろうと思いました。

——言葉はその時代の文化を表すといわれます。そもそも「障害者」という言葉自体が、排他的、差別的でしたからね。ピープルデザインも独自の発想からだったのですか？

鶴田 はい。今までなかった分野のファッションを開拓していこうという思いを込めています。障がい者、健常者、老若男女……どんな人も分け隔てなく、普通に着られるような「やさしい服」という意味での「ピープル」です。

両刃の剣、捨てる身の覚悟……

——東京コレクションに参加するだけでも、相当の経費がかかるのでしょうか？

鶴田 ええ。でも、目立つための投資と考えています。まだ1年しか経っていませんが、経営は両刃の剣の状態、捨てる身の覚悟ですね。

——両刃の剣といい、捨てる身の覚悟といい……生半可じゃないですね。

やがては、障がい者、高齢者 に働いてもらえるようなテンポに

鶴田 最終的には障がい者、高齢者の雇用までやりたいんです。障がいのある人たちは、一生懸命に働いても、信じられないほどの低賃金が大半です。そんな実態を変えるためにも、きちんと雇用できるような大きな規模の会社にならなくてははいけません。どんどん注目されるようになって、ビジネスとしても安定させたいですね。

——10月のテンポ東京コレクションは、終戦の「1945年」がテーマでした。広島、長崎の原爆を擬人化した「リトルボーイ」「ファットマン」がテンポのファッションをまとって登場しました。

鶴田 テンポは「平和」を理念に掲げています。ファッションショーらしいテーマじゃなかったのかもしれませんが、戦後70年という節目の年、やらない理由はありませんでした。広島市の後援もいただきました。

「やさしい服」で、 平和を希求していきたい

——平和の象徴といわれる折り鶴のプリントも、テンポのキャラクターになっていますね。

鶴田 ええ。併せて、将来の夢として世界中に、「ヨミちゃん」には笑顔を届けることを、「サンズくん」には、希望を届ける



サンズくん

ことを、それぞれイメージさせています。誰もが分け隔てなく幸せになれる平和な社会を願って進んでいくつもりです。



東京コレクションのテンポ・ショー
(2015.10.13)

——『やさしい服』をまとった東京コレクションの出演者には、自然にあふれ出るにこやかな表情が多々、ありました。近い将来なののでしょうか、『障がい者雇用のテンポ』の登場を待ち望んでおります。本日は長時間ありがとうございました。



講演録



「核兵器と原発」のない未来へ

～ 福島第一原発を視察して～

柳町 秀一さん（原発問題住民運動全国連絡センター事務局長。当クラブ理事）

東京・港区の株ニッセイエプロで、2015.6.26 に行われた講演の採録（要旨）です

全面マスク・防護服姿で、さる5月、福島第一原発サイトを視察しました。廃炉作業中の現場を自分の目で確認できたことは、「核兵器と原発のない未来」を願うものにとって、何よりも貴重な体験でした。

重要免震棟、H2タンク群、凍土遮壁工事現場などを約6時間、つぶさに見て回り、東電側から説明を受けました。

「百聞は一見に如かず」を強烈に感じさせられたのが、高濃度汚染水を貯蔵するタンク群の、異様なまでの巨大さでした。遠方がかすんで見えるような広大な敷地に、ビル群を思わせるタンクの林立。直径十数メートルもあるホースや配管がタンク群の周りに入り乱れている光景には、言葉を飲み込むしかありませんでした。

まるで、東京ドームの中に一人佇んで空間を見上げているような錯覚に陥り、無力感を感じました。

これまで、タンクの汚染水漏れが明らかになるたび、「どうしてそんな基本的なことが防止できないでいるのか？」と、腹立たしい気持ちでいました。しかし、現場に行ってみてわかりました。通常の人々の力をはるかに超えたような作業が行われていたのです。ひとたび、原発が破壊されたら、人智を超えた超々大規模の修羅場が待っている……全身が震えるほど実感しました。

今も12万人余の被災者が、福島県内外に避難を強いられている放射能汚染。人間の力ではどうすることもできないその現実の一方で、汚染水処理対策の一環の管理という基本的な物理的作業さえままならない実態……。

「核兵器と原発のない未来」へ、ゆるぎない国民的意識の必要性を強く強く感じさせられました。



柳町さん



銀座エコツアー



屋上緑化でつながるコミュニケーション

～ [緑あふれる都市作り] みんなで取り組む都市熱低減～

NPO 法人サスティナビリティ創造研究会と当クラブの共催で、2015.7.22 の午後、行いました。当日のツアーの様相を紹介します（要旨）。

都市部には、著しい平均気温の上昇や人工排熱、緑地の減少でヒートアイランド現象が起きています。東京都では、一定の規模のビルには屋上・壁面緑化が義務付けられていますが、中小規模のビルではほとんど行われていません。今回のツアーは、そんな中小規模のビルで「簡単にできる屋上・壁面緑化」に取り組んでいる資生堂銀座、松屋銀座、白鶴酒造を見学します（ツアー当日の開催案内要旨）。

コンクリートジャングルまっただ中の東京・銀座。気温35度の猛暑日の昼下がりにもかかわらず、約20人の“ツアー参加者”が集まった。ツアーは、資生堂（中央区銀座7-5）、松屋（同3-6）、白鶴酒造（同5-12）のルート。

初めに訪れた資生堂ビル。「資生の庭」と名づけられた屋上には、100種類余の樹木、植物が生い茂っていた。ツバキ、オリーブなどの木々の葉が揺れ、さながら“大都会のミニ・オアシス”の観を呈していました。

松屋銀座の屋上庭園には、野菜やハーブが育てられ、「銀座ミツバチプロジェクト」として、養蜂も行われていた。養蜂で、都会での生態系やサステナブルな環境を考えるのだという。最後の訪問先、白鶴酒造の屋上は名づけて「白鶴銀座 天空農園」。カボス、クワイ、水菜など「地方の特産品の普及のお手伝い」という果樹、野菜が実をつけ、水田では“限定特選銘酒”に仕込むという稲が青々と育っていた。

“ツアー”後、同酒造で「簡単にできる屋上・壁面緑化」について、小田朝水・同酒造 天空農園長らによる講演会も開かれました。



資生堂銀座ビル・屋上で



白鶴酒造での講演会



白鶴酒造ビル・屋上で



松屋銀座ビル・屋上で

これまでの講演 卓話 公演等

(各欄に記載のない会場は、いずれも法政大学市ヶ谷キャンパス。肩書は当時)

詳しくは、<http://www.heiwa-unesco.jp> の「一覧」をご覧ください!

講演: 「介護は楽しく 人生気楽に！」 講師: 田辺 鶴瑛さん (講師。講談協会 真打) **2015年8月21日**



実母、義母、義父の3人を自宅で介護してきた→

→実体験をもとに、介護講談の新ジャンルを創った田辺鶴瑛さん。ともすれば、暗くなりがち介護の実態を、義父とのユーモアあふれる丁々発止のやりとりで描いてみせておられました。ピアノ(左写真)まで動員した講演に、拍手が鳴りやみませんでした。

鶴瑛さん

於: 新宿区四谷センター



「銀座エコツアー」～屋上緑化とつながるコミュニケーション～ 共催: NPO 法人サステナビリティ創造研究会 2015年7月22日



資生堂銀座ビル屋上

人工排熱、緑地減少などによるヒートアイランド現象で上がる大都会の気温。この日も35度という猛暑日の中「簡単にできる屋上→



白鶴酒造ビル屋上

→上・壁面緑化」に取り組んでいる東京・銀座の資生堂、松屋、白鶴酒造の3ビルを訪ね、しばし“都会のオアシス”に浸りました。



松屋銀座ビル屋上

講演: 「核兵器と原発のない未来へ」 講師: 柳町 秀一さん (原発問題住民運動全国連絡センター事務局長) **2015年6月26日**



全面マスク・防護服姿で5月、福島第一原発を視察しました。重要免震棟、タンク群、凍土遮壁工事現場などを見て回りました。「百聞は一見に如かず!」だったのが、ビル群を思わせる巨大な高濃度汚染水貯蔵タンクの林立でした。直径十数mのホースや配管が入り乱れる光景に言葉をのみました。今も約12万人の被災者が避難している放射能汚染。人間の力ではどうすることもできない現実の一方で、汚染水処理対策の一環の管理という基本的な物理的作業さえままならぬ実態に、改めて「核兵器と原発のない未来へ」と強く感じました(講演要旨)。<於: 関ニッセイエプロ>

講演: 「南三陸の灯を消させまい！」 講師: 阿部 憲子さん (南三陸ホテル観洋・女将) **2015年3月27日**



あの日、3月11日は雪のちらつく寒い日。続々と避難してこられる住民の方々を、何としてもお支えしなくてはと決意しました。お客様、住民が最優先、私もはおにぎりを半分ずつで1週間、こらえました。ホテルが一時期約千人の住まいになったり、散在する町の老舗の地図「てん店まっぶ」を創って宮城県第1回観光王国みやぎおもてなし大賞を受けたりしました。「千年に1度の災害は千年に1度の学びの場」と知りました。人の姿が町を創ってくれます。ガソリン補給だけでも、どうぞ被災地にお越しいただきたいと願っております(講演要旨)。(於: 新宿区四谷センター)

講演: 「奥の深いユネスコ活動」 講師: 松田 昌士さん (日本ユネスコ協会連盟会長) **2014年12月12日**



ユネスコ精神に合うなら何をしてもいいのがユネスコ活動——と説く松田さん、「ユネスコ運動は、本社があって支店があるといった“上からの指示”で動いているのではない」と指摘されました。“教育の格差”にも触れ「日本にも寺子屋の精神が必要。“ドロップアウト”を放置しない教育の自由化が必要」と強調されました。

ミニ・シンポジウム「グローバル時代のユネスコ活動」～現場が教えてくれる～ 2014年8月28日
講師: 朝倉洋子 (杉並ユネスコ協会会長) : **吉崎晴子** (NPO法人市川市ユネスコ協会会長) **さん**



東京初の地域民間ユネスコ団体の杉並ユ協。「若者を取り込まないとユネスコの未来はない」と朝倉さんが訴えれば、今年2月にNPO法人となったばかりの市川ユ協。「ジベタリアン」を自任する吉崎さんは、「1人でなく、10人の力を出し合っていくことが大切。継続は金なり!です」と強調しておられました。



卓話: 「揺るがぬ民間ユネスコ運動の力」 講師: 鈴木 佑司さん (法政大学教授) **2014年6月26日**



民間ユネスコ活動が「政策提言できる運動」へ質的転換を計り、自由な理念を持った運動の力が教育現場で活用されるなどの検討が、「見えない解決」へのロードマップとなっていく——微に入り細をうがつように解析された最新のデータをもとに、日本・アジア・世界の現状を多角的に分析されました。

「ハンセン病資料館語り部 平沢 保治さんの語りを聴く会」 於: 国立ハンセン病資料館 2014年4月25日



14歳での国立ハンセン病療養所多磨全生園入所以来、断種手術を強いられるなど人間性を否定された70余年。それでも平沢さんは、「怨念を恨みで返しては人間は共生できない」「どんな人も、この地球上の約72億分の1の一人でもその役割を果たしている。人間だけにある思いやりの心を忘れないでほしい」と強調しておられました。

卓話: 「スポーツと見る力」 講師: 真下 一策さん (スポーツビジョン研究会代表) **2013年12月20日**

「スポーツと眼」の研究者・真下さん(写真・左)は、現代の子どもたちに「警告」されました。教師が配る用紙をさっと受け取れず、顔にぶつけてしまう子が多い…。動体視力、視力距離感が極端に弱く、瞬間視力だけは発達している。コンピューターゲームの影響が強い——将来を憂慮されていました。



公演「歌声サロン」 於: 「スタジオ ベイド」(STUDIO BAYD 下北沢店) 2013年10月25日



当クラブ会員でもある山田満さん(写真・左)の歌唱指導で「秋を歌う」をテーマに約30曲、合唱しました。リクエストの1位曲を選んだ参加者に、吉崎晴子・当クラブ理事(写真・右)から世界遺産「富士山」のパンダナがプレゼントされました。「楽しかった!」「歌で一つになった」……多くの反響がありました。

これまでの講演 卓話 公演 等

(会場は「意見交換会」「歌声サロン」を除き、いずれも法政大学市ヶ谷キャンパス。肩書は当時)

詳しくは、<http://www.heiwa-unesco.jp> の「一覧」をご覧ください!

卓話: 「核のない未来へ」 講師: 柳町 秀一さん (原発問題住民運動全国連絡センター事務局長) **2013年8月26日**

福島第一原発事故は「安全神話」だけが強調され、危険の認識について社会が共有するに至っていなかった——それが一番の問題。「フクシマ」を謙虚に反省し、「フクシマ」について語り続ける国民的合意の形成こそが、国民の暮らしと生活を守っていく道……柳町さんは強く訴えておられました。(※柳町さんは当クラブ理事)



卓話: 「性同一性障害を知っていますか?」 講師: 虎井まひるさん (作家。立教大非常勤講師) **2013年7月26日**



～女から男になったワタシ～ (著書名) 男の身体にならないのでは……小5にして違和感を感じる。「将来、手術を受けよう」と10歳時から「毎日30円貯金」を続けた。「女がいや男がいいではなく、魂が間違っただけの中に閉じ込められている」という観念にいかにもさいなまれたかを、淡々と語っておられました。



プチ「歌声サロン」 (於: 東京・渋谷「ノア」) **2013年5月30日**

約20年、一曲一曲を「歌心に合わせてアレンジ」し「マイオーケストラ」(自動演奏機)に蓄えてきた当クラブ会員の山田満さん。名エンターティナーのリードで、かつての「歌声喫茶」さながらに声を張り上げました。

講演: 「成年後見制度について」 講師: 小島 寛さん (一般社団法人民事法務協会成年後見部長) **2013年4月25日**



総人口に対する成年後見制度の利用割合はドイツの約10%と比べ、日本は約1%という。小島さんは「判断力の低下した高齢者や障がい者の財産を誰が守るのか」「この制度は、介護保険制度とともに高齢化社会を支える車の両輪と言われる」と、難解になりがちな制度をわかりやすく話しておられました。

講演: 「南三陸の灯を消させまい!」 講師: 阿部 恵子さん (南三陸ホテル観光・女将) **2013年3月28日**



「被災地の実情を第三者の方々に肌で感じていただき、お伝えしていただくのが何より大切」と無償で来ていただきました。生の体験のストレートな講演に、「行動に移す大切さに気付かせられた」「共感を持ち続けるためにも、役に立つお話しだった」「優しい語り口に、大変なご苦労がうかがわれた」——など、多くの声が寄せられました。

公演: 「聴導犬のデモと講演」 講師: (福) 日本聴導犬協会と同協会会長・有馬もどさん **2013年2月28日**



目覚ましで布団に飛び乗り、玄関のチャイム音では飛びついて教えてくれる。はるばる長野・宮田村から駆け付けてくれた4匹の聴導犬たちの鮮やかな公演でした。「聴導犬は耳の不自由な人にとって、生活、命、心、危機時の意思疎通役、社会関係の支え」——この道17年の有馬さんの言葉は、心に響きました。

卓話: 「東アジアと日本」 講師: 若宮 啓文さん (前・朝日新聞主筆) **2013年1月31日**



新聞社政治部時代に韓国留学した若宮さん。常にアジアを俯瞰視してきた立ち位置で日中、日韓、中韓に存在する動き、歴史を解説されました。「不満には目をつむって手を結ぼう」だった日韓は今、劇的に変化している——などと昨今の東アジア情勢を分析、「互いに我慢してやっていかないと……」と話しておられました。

卓話: 「日本のエネルギー戦略について」 講師: 荘司 紀夫さん (荘司エネルギー問題研究所長) **2012年11月29日**



ざっと40年間、LNG開発に携わってこられた荘司(しょうじ)さんに、日本が抱えるエネルギー事情や歴史を話してもらいました。「エネルギーのソースは多角化が必要」「どういふエネルギーがどういふバランスで必要なのか?」について、もっと議論を深めていこう——話は、話題のシェールガスにも及びました。

意見交換会: 「世界遺産・平城宮跡での工事への緊急声明」について (於: 渋谷・カフェミヤマ) **2012年10月25日**

国土交通大臣殿 文化庁長官殿

世界遺産「平城宮跡」の埋立て・舗装工事に抗議する緊急声明 工事の最大の懸念は、地下水

の枯渇による埋蔵文化財の破壊です。(中略) 貴重な文化遺産です。(中略) 迅速な対応を求めます。

発起人 小井修一 (高速道路から世界遺産平城京を守る会 事務局長) 寮美千子 (作家・奈良市在住) *国営飛鳥歴史公園事務所平城分室へ提出しました。

卓話: 「民の知識で守る世界遺産」 講師: 関口広隆さん (公益社団法人・日本ユネスコ協会連盟) **2012年6月28日**

世界遺産「フィリピン・コルディリエラの棚田群」は2001年、「イフガオの棚田」の30%前後が崩壊……などの理由で「危機遺産」に指定されました。しかし、現地の人たちは崩壊復元に努力、奇遇にも本日(卓話当日)、ユネスコ本部から「危機遺産指定をはずす!」の連絡が舞い込みました——劇的な一幕に関口さんの声も弾んでいました。



卓話: 「路地裏の人権」 講師: 田中 正人さん (読売新聞社社友。元東京本社編集局長) **2012年5月31日**



「差別するつもりはなかった」という名の差別がある。『差別しないつもり』『差別したくなくなる心』という無意識の意識を育まなければいけない——と田中さん。人間が尊厳を持って暮し、生きていくことができるのが平和なのではないか。人権は問題がなくてもある。空気のようにどこにでも、365日いつでも存在する——と強調されていました。

平和の文化東京ユネスコクラブ 創立記念講演会 **2012年4月6日**

2012年3月26日設立の当クラブの創立記念総会に併せて行いました。公益社団法人・日本ユネスコ協会連盟理事長で文京学院大学教授(当時)の野口昇さんが「ユネスコの過去・未来」と題し、日本政治学会理事長で法政大学教授の杉田敦さんが「平和とは何か〜3・11以後の日本から考える〜」と題してそれぞれ講演されました。

阿部 憲子さん 南三陸ホテル観洋（宮城県）女将

（阿部さんに毎号、伝えていただきます。南三陸からの『定点レポート』です）

ネギは料理では、脇役だったんです。それが今や“主役級”になりました——女将・阿部さんの声が弾んでいた。

「南三陸の復興を後押しする特産品として、ネギの生産を大規模に進めたい。町内のレストラン、食堂でネギを使った料理を普及していきませんか」……地元農協や宮城県の農業改良普及センターなどから、そんな“相談”が舞い込んだのは昨年秋のこと。大震災で7割が廃業した地場産業の復興を願い続け、片時も忘れない女将さんだが、正直、戸惑う。南三陸の目玉といえば言わずと知れた海

の幸。ネギがどこまで“ブレイク”できるのか……。女将さんの“やる気”に火をつけた一つが、一人の

青年、^{わたなべけい}渡部恵さんの存在。大震災後、渡部さんは女将さんがホテルに開設した無料英会話教室のボランティア講師になってくれたり、被災住民への支援物資の配布を率先して手伝っていた。ホテル観洋で働いていた武田侑子さんと結婚し、女将さんとは

“親戚同然”の間柄。何よりも、塩害で休耕地になっている「復旧農地」を借りて様々な農耕にチャレンジ、**南三陸ネギプロジェクト**「被災者から「遊休地を蘇らせてくれる人」と

ネギは塩害に強いという。もちろん、渡部さんも作付けしていた（下写真）。

女将さんの思いを厨房が叶える。海鮮料理では脇役だったネギをたっぷり使うメニューを考案してくれた。女将さんは、自らが創って大好評の「点在する町の商店が一目でわかる地図『南三陸てん店まっぷ』」の食堂にも働きかける。7店舗が応じた一。

やるならみんなで一斉に！ 昨年末、各店舗やホテル内レストランに、ネギたっぷりのネギトロ丼、ぷりぷり牡蠣そば、肉そば、海鮮ラーメンが新登場した（左上写真）。「実はネギって、海産物料理にも合うことがわかりました」と女将さん。「第一次産業と第三次産業が手を結ぶことができたんです。被災農地での新たなネギ特産を目指して、流通、消費を広げたくご協力させていただきます」

——あの日からまもなく5年。復興へ、思いはさらに熱い。

2016.2.7.（聞き書き）

特産ネギがたっぷり



中央は侑子さん

～被災地は今～

・死者:1万5894人・行方不明者:2562人(2016.2.11.警察庁まとめ)
・震災関連死:3394人(各県のまとめ)・避難者:17万7866人(復興庁まとめ)

ご入会 ご支援 ご協賛を

ご入会（一般会員、賛助・維持会員）、ご寄付、共催ごの企画など、お待ちしております。ご連絡はホームページ「お問い合わせ」欄かFAXでお願いいたします。

<http://www.heiwa-unesco.jp>

平和ユネスコ

検索

編集後記

当クラブが発足して、今年3月で丸4年になります。NPO法人として再スタートを切ってからもうやがて2年。まさに光陰矢のごとです。幣機関誌「会報」も今号で第10号の「節目」の発刊となりました。諸般の事情で発行が大変遅れてしまいました。お詫びいたします（S）。

機関誌「会報」通巻10号 2016・2・22発行（季刊）

発行：特定非営利活動法人 平和の文化東京ユネスコクラブ 発行人：田中 正人
〒100-0061 東京都千代田区三崎町三ー一七 小澤ビル五階
電話 03・3239・1983 ファックス 03・5276・1646

（記事・写真無断転載お断り）